

1 直近の活動

3月01日(日)四部会連絡会発足 (繊維・化学・資源・金属)

3月05日(日)幹事会

3月12日(日)技術 세미나6「表面技術」66名

3月19日(日)デジタル技術勉強会座談会12名

3月26日(日)金属部会定例会部会 (3月分) CPD講演+技術者倫理講演、77名

CPDシステム登録オンライン講習会 17名

3月30日(木)四部会連絡会 (第1回目会議)

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

4月02日(日)幹事会

4月08日(土)一次試験合格者交流会

4月09日(日)デジタル技術勉強会オンライン打ち上げ

4月22日(土)金属部会& **YES-Metals!**合同新合格者歓迎会

4月23日(日)金属部会新合格者歓迎見学会

4月27日(木)四部会連絡会 (第2回目会議)

3 部会四方山

今回の四方山は辛口です。▶今年も新合格者がたくさん誕生しています。毎年数十人の新人が部会に参加してくれています。でも、その割には、部会の人数が増えていません。これは、入る人と同じくらい日本技術士会からやめていく人がいるということでしょう。▶技術士会の参加者を増やす話がこれまでも色々議論されてきました。曰く、まだ入会していない人に働きかける。曰く、未入会者へのサービスを従実して、良さを知ってもらう。曰く、……。▶未入会者へのサービスをすればするほど、入会者へのサービスが入会していなくても受けられる。わざわざ高い年会費を払う必要など不要と言っているような気がします。▶私の頭が古いのか、サービスを受けなければ、入会すればいいと思うんです。私は未入会者へのケアをする時間があれば、入会されている方々へのサービスを充実する、満足度を上げる活動をするのに時間を使いたいと思います。組織の人数を増やすには、やめていく人を減らし、入ってくる人が所属していいよな、僕も貢献したいねと思われるような部会活動をすればいいのではないかと思います。少なくとも「全ての部会活動をボランティアでやっている」現状では、全方位にいい顔はできません。▶部会活動は、参加者の貢献がなければ成り立ちません。またできる限り、虚礼を廃止して、余計な手間をかけないで行きたいですね。ですから、みなさんご意見が色々あるかと思いますが、私は皆さんのことを先生と呼びませんし、できるだけ役職で呼ぶのもやりません。ほとんどの場合は、「さん」です。言葉遣いだけでなく、講演会の時の講師紹介もしません。自己紹介は講演の中で行うし、肩書きも案内に載っているのです。▶新人が入ってくるのと同じペースでやめていく人がいるということはとてつもない危機的な状況だと思います。その人数の人たちは、部会活動に白け切ってやめていくのです。会費を払わなければならないのでやめる人なんていないでしょう。初年度は無料なんてことをやると、それはその人たちの権利を奪っているこ

とではないでしょうか。会費を払って活動に参加するという権利です。▶活動が低調、参加者が増えない理由は簡単です。それは活動がつまらないからです。参加したいと思わないからです。私なら、こう思います。つまらない活動に時間を費やす暇は俺にはないと。技術士の認知度が低いと嘆いて見せても仕方ありません。だって、技術士ですら興味が持てず無視するような活動をしている技術士に誰が満足するのでしょうか。世の中で知っている人が少ない、部会人数が増えないのは、世の中のせいではなく、技術士の活動がつまらないからだと考えて、初めてやるべきことが見えてくる、こういう気がします。プライドや見栄を捨てて夢中で活動している姿、これが見えることだけが活性化への道筋ではないでしょうか。勝手なことを言いました。

4 和鐵管見 19

▶近況を話しましょう。以下の文章の通りです。最後に驚愕の結末が待っています。

「和鐵の一日」

+++++

【朝のルーティーン】

和鐵は朝、目覚めてからすぐに運動する習慣を持っていた。彼は健康管理支援プログラムに参加し、運動と食事の改善に努めていた。今日の朝食は、自宅で作った野菜スムージーと焼きたまごだった。

【会社での出来事】

その後、和鐵は会社に向かった。彼が所属するチームは、新しい業務プロセスの導入に関するアイデアを社員から募集するプロジェクトに参加していた。和鐵は、自分が考えたアイデアをプレゼンするために準備を進めていた。

会議室に入ると、プロジェクトリーダーがプレゼンの順番を告げた。和鐵は、緊張しながらも自分のアイデアを発表した。そのアイデアは、社員間での情報共有をより円滑にするためのプラットフォームを検討するというものだった。

プレゼンが終わると、チームメンバーからは拍手と称賛の言葉が飛び交った。和鐵は、社員のアイデアを積極的に取り入れる制度の導入によって、自分のアイデアが評価されることに感謝の気持ちを抱いた。

【スキルアップ】

午後からは、和鐵はスキルアップ研修に参加した。彼は、自分の業務に必要なスキルを習得するために、社員のスキルアップ研修の増加に積極的に参加していた。今日の研修では、コミュニケーションスキル向上のための研修プログラムが行われた。

【夜のルーティーン】

研修が終わると、和鐵は自分の家に帰った。彼は、健康管理支援プログラムの一環として、自宅で夕食を作ることにした。今日のメニューは、鶏肉と野菜の炒め物だった。

夕食後、和鐵はストレス管理支援プログラムの一環として、ヨガのレッスンに参加した。レッスンが終わると、和鐵はリラックスした気持ちで、明日の業務に備えて早めに就寝した。

和鐵は、自分の生活や業務に取り入れた取り組みが、自分自身の健康やモチベーション向上につながっていることを実感していた。

+++++

▶なんだか意識高い系の話題で恐縮です。では次の話題はこれです。

「脱炭素社会に金属が果たすべき役割」

+++++

脱炭素社会において、金属は以下のような役割を果たすことが期待されています。

【1再生可能エネルギー技術の発展】

再生可能エネルギー技術の発展には、金属が不可欠です。風力発電や太陽光発電に使用される風車やソーラーパネルには、アルミニウムや銅などの金属素材が使用されています。また、電気自動車などに使用されるリチウムイオン電池には、リチウムやコバルト、ニッケルなどの金属素材が必要です。

【2エネルギー効率の向上】

金属素材を使用した製品は、従来の製品に比べて軽量化や強度向上が可能であり、エネルギー効率の向上につながります。例えば、自動車に使用されるアルミニウム合金は、軽量化により燃費の向上につながります。

【3リサイクルの推進】

金属素材はリサイクル性が高く、資源の有効活用に貢献できます。金属製品のリサイクルには、金属の再生に必要なエネルギー量が少なく、二酸化炭素の排出量が削減されるというメリットがあります。

【4環境負荷の低減】

金属製品の製造において、省エネルギー・低炭素化技術の導入や、環境負荷の低減を目指すことが求められます。例えば、鉄鋼業界では、創エネやクリーンな製鋼プロセスの開発が進められています。

以上のように、再生可能エネルギー技術の発展、エネルギー効率の向上、リサイクルの推進、環境負荷の低減など、金属は脱炭素社会において重要な役割を果たすことが期待されています。

+++++

▶皆さん、どうです。この2つの文章「和鐵の一日」「脱炭素社会に金属が果たすべき役割」は？ 結構意識高い系の行動と高尚な環境意識を持って毎日を過ごしていると思いませんか？

実は、「和鐵の一日」は人工知能のNOTION AI、「脱炭素・・・」は最近話題の人工知能のchatGPTに表題だけ打ち込んで、自動作成させたAI文章です。でも、出来上がってきた文章を見ると、「朝スムーズー」とか「夜のジム」なんか、「NOTIONは俺のことをのぞいているんかい」という感覚になります。多分、データベースの日記の一部にそんな記述があるんでしょう。でも、この文章を読んでいると、今は会社は卒業しましたが、「そうかこういうふうにごさなければならんのか」と、こちらからAIの記述に行動を合わせてしまいそうになります。chatGPTは、このままでも本に載せられそうでちょっとびっくりです。

▶シンギュラリティが2045年とか言っていましたが、物書きの世界ではもう始まっているのかもしれない。数年以内には「著述業」は失業なのかなあ。そもそも書籍って、一つのコンテンツを大量のユーザーに販売する手段です。一人一人のユーザーに合わせていないという点では、書籍はオワコン（終わったコンテンツ）になっているのかもしれない。薬ですら、個人に合わせた処方箋でその人の遺伝子にあった配合で作られる時代です。書籍も、一人一人にあったコンテン

ツ内容の書籍が売られる時代がもうすぐやってくるような気がします。だいたい、小学生から社会人まで同じコンテンツを読む方が異常ではないでしょうか。

最後に、「和鐵の文章は長い」と評判が悪いので、今回の「和鐵管見 19」をNOTION AIに要約してもらいました。

「このドキュメントは、和鐵の一日と脱炭素社会における金属の役割について述べています。和鐵は健康管理支援プログラムやスキルアップ研修に参加し、自分自身の健康やモチベーション向上に取り組んでいます。また、脱炭素社会において金属が果たすべき役割についても説明されています。」ですって。へえ、すごいなあ。これって誰のこと……。

さて、今回の文章のどの部分がAI、どの部分が和鐵が書いたものでしょうか。

では、ごきげんよう。（最後の1行だけは生身の和鐵の文章です。どうだAIはごきげんようなんて言葉は言えんだらう……一体誰に喧嘩を売っているのか。今、我に帰りました。）

第22号

1 直近の活動

3月30日(木)四部会連絡会(繊維・化学・資源・金属)

4月02日(日)幹事会

4月08日(土)一次試験合格者交流会

4月22日(土)金属部会& **YES-Metals!**合同新合格者歓迎会

4月23日(日)金属部会新合格者歓迎見学会

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

5月07日(日)幹事会

5月14日(日)金属部会CPD技術セミナー7「歴史金属学」

5月17日(土)部会長会議

5月20日(土)二次試験合格者歓迎会

5月25日(木)四部会連絡会2回目(繊維・化学・資源・金属)

5月27日(日)金属部会定例部会(5月分)

3 部会四方山

▶皆さんの選挙へのご協力感謝します。部会長選挙はどの部会も無投票であったが、理事選挙にはしっかり対応していただきました。渡邊次期新理事が誕生しました。今後のご活躍を祈念します。我々、金属部会も渡邊さんを全力でバックアップしていきたいと考えています。▶笹口現理事は、理事会、委員会活動に大活躍で、本当に頭が下がる思いでした。金属部会は、このような先輩たちが築いてこられた頑張り精神がリアルに感じられる素晴らしい部会だと感じています。▶私も、部会長1期目が終わろうとしております。2期目も、皆様にお助けいただき、叱咤激励頂きながら、努めたいと思っています。▶幹事の皆さんには、本当に助けられています。地方活性化幹事や部会活性化幹事も、各々のできることを全力で協力いただいています。今回の新合格者歓迎会では、**YES-Metals!**のメンバが全面的に協力いただき、見学会も藤間幹事の頑張りで行えました。今回の歓迎会は、昨年、新たに部会活性化幹事になってくれたお二人の頑張りで行えました。▶地方活性化幹事には新たに、中部本部より2名、中国本部より2名が加わっていただきます。手続き上の関係で、5月末での幹事登録になります。▶金属部会から提出する「デジタル技術」に関する論文も、芝崎さんの頑張り、勉強会のメンバの全面協力で広報委員会との校正のやりとりが進んでいます。関係者の皆さんの協力がなければ、今回の論文作成はありませんでした。▶金属部会の会合も、オンライン一辺倒から次第にリアルとオンラインのハイブリッドに移りつつあります。コロナ体制から、ウイズコロナ体制への以降が進んでいます。そうした中、今回の歓迎会の中で、リアル会合におけるコロナ発生時の対応が、きちんと想定されていなかったことに気付かされました。幸い、我々の会合での感染者拡大はなかったのですが、判明後の連絡体制などが不明確で、皆さんにご迷惑や心配をおかけしました。建前ではない、実効性のある対策の必要性を

認識した次第です。病気の扱いが変わっても、我々のような年齢層の高い集団では、常にリスクヘッジをし続けなければなりません。そう、気付かされた月末でした。▶部会員の皆さんの今後のご協力、本当によろしく申し上げます。

4 和鐵管見 20

最近の楽しみ。最近ハマっているのは、昔の英語やドイツ語の書籍を読むこと。この場合、翻訳ソフトを使うと、何だかズルをしているようだが、全然そんなことはない。翻訳ソフトで、まともな文章が出てくると考えるのは大間違い。ましてやOCRなども、そのまま信じると危ないこと極まりない。語順が入れ替わったり、読み間違っただけで意味が正反対になるのなどザラにある。▶でも、色々発見がある。英語も、小説と異なり、科学技術書になると、本当に5行くらい繋がる文が目白押しだ。これはすごい。翻訳ソフトの助けを借りてもその入り組んだ構文を読み解いて、意味が通るようにするには、ものすごい時間がかかる。▶一方、小説は短い文章が多い。会話文になっている部分は文が畳み掛けるようになっている。ただ、ここで注意点は、ドイツ語の小説は、昔の本は飾り文字になっていることだ。ドイツのアマゾンで1920年代に出版された初版本を買ったのだが、本を開いて驚いた。とてもアルファベットとは思えないような飾り文字がどばーと出てくる。▶でも面白いもので、そんな飾り文字でも見慣れてくると読めるようになってくる。それに、古書の中に入っていた謎の絵葉書が役立つ。それは *BücherWissen* (書籍知識) と書いてあり、その本の字体の簡易文字との対応表が印刷してある。そうか、古書店の店主は日本から物好きが買った本の文字が全然読めずに返品されることを恐れたのか、それともサービスか。▶実はドイツ語を訳した本は、昭和19年に日本でも有名なドイツ文学者の藤田五郎さんの翻訳本が出ている。それを、今回、完全に新訳した。題名は「ROMAN Metall (小説金属)」有名なシェンチェンガアの本である。とりあえず読めるレベルまで訳せたので、次は、その内容の解説である。なんせ、1700年代から1920年代までの欧州の金属系の有名人が目白押しに登場する小説である。面白いこと極まりない。ただ、あまり冗長である。章立てが奔放であり、しかも、会話劇風である。会話が弾むどころの騒ぎでなく、会話が飛び回る。▶ドイツ語を真面目に読んだのは、大学の第二外国語以来だが、ドイツ語の面白さが目につく。単語をくっつけて、新しい意味を持たせるのも面白い言語である。▶金属を知る方法には、真面目に金属の教科書を読む方法が正攻法であろう。しかし、楽しみながら知識を身につけるのもなかなか、味なものである。

第23号

1 直近の活動

5月07日(日)幹事会

5月14日(日)金属部会CPD技術セミナー7「歴史金属学」・・・104人参加。講演後楽しい飲み会。

5月17日(土)部会長会議・・・久しぶりの会費制の一次会・二次会飲み会付きで疲れた。

5月20日(土)二次試験合格者歓迎会・・・1名のリアル参加者。飲んで帰宅すると0時を超える。

5月25日(木)四部会連絡会2回目（繊維・化学・資源・金属）他部会との会話は少々疲れる。

5月27日(日)金属部会定例部会(5月分)・・・57名参加。完全オンライン開催で楽だった。

5月30日(火)中部本部三部会合同部会との全国大会打ち合わせ。他部門と疲れる。

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

6月01日(木)金属部会臨時執行役員会

6月04日(日)金属部会幹事会

6月10日(土)中国本部金属部会員・執行役交流会（広島）リアル会合。

6月11日(日)中部本部金属部会員・執行役交流会（名古屋）リアル会合。

6月18日(日)「企業内技術士勉強会（第一回）」～12月までの予定で行います。

6月25日(日)金属部会定例部会(6月分) 執行役交代ご苦労さん会もあります。

3 部会四方山

▶5月は、行事がかなり多かった。最近のアンケートでも「行事を減らすように」とか「補助金以内で行事が回るように行事を考える」とか「事務局に返納金が出るのはやりっぱなしの証拠」などというご指摘がある。▶行事が多いならば参加を減らしていただければ済む話だし、補助金の額が部会の講演者数の上限だとは思わないし、返納金が出るのは、全国展開、他部会も受け入れての会合をしているので講演回数も増えるのであって、補助金の金額の決め方のルールが実態についてこれていない（金属部会の補助金は関東圏の人数比で配布されている）ので、どれを減らそうかという議論ではなく、実態にあった補助金制度を提案すればいいのではないかと思う。まあ、収支決算は5月定例部会でもご説明したように部会活動が健全に回るレベルになっているので、ご心配には及ばないが。▶ただ、正直2年間の部会長をさせてもらい、昨年だけでも、交通費や出張費が全部自腹で行ない、数十万単位の出費になっている上に、無制限の時間拘束がある役職にであることがちょっと気がかりだ。まあ苦情ではないが、何にモチベーションを見出せばいいのかということだ。これまでの諸先輩や現在の同様の立場の人々が文句も言わずに仕事に勤しんでいられる姿を見るにつけ・・・▶まあ、小生のモチベーションは、全国の金属部会員の皆さんが元気に活動をされて、「技術士でよかった。金属部会でよかった」と思っていたことだけを考えると、損得抜きで目の前の仕事をする、この一点だけである。それでなければ、まだまだ生々しい議論をしなければならぬ世代の人間として、ボランティアの領域を超えるボリュームの仕事が降ってくる役職をこなしていけない。行事頻度を下げればとか、勉強会をやめればという話もあるが、それ

はそれでモチベーションの一環なので、苦勞ではない。3～5月にかけての報告書作成をはじめとする自分でやるしかない様々な「義務」は、よく諸先輩方はこなされてきたと感心し、ご苦勞があったんだろうなと推察する次第である。▶まあ、根がいい加減で、物事をあまり深刻に考えないタチなので結構ドタバタを楽しんでいるところもある。ただ、仕事はルーチンなので年を追うごとに慣れてきてテキパキできるはずなのだが、慣れて短縮した時間を新しいことに使ってしまう貧乏性の性格が災いして、いつも安定のドタバタである。考えてみれば、会社時代も全く同じであり、常にテンパった状態だった。多分この性分は死ぬまで治らないと思いつている。▶そんなことを考えながら、また「企業内技術士勉強会」やら地域連携の新たなやり方を始めようとしている自分がいる。以上

4 和鐵管見 21

「四方山」がハードだったので、ここは柔らかくいきたい（単に手抜きということかもしれないが）。小生は、10年ほど前、松岡正剛さんの塾の門下生であった。文章や発想法などを、ものすごい勢いで学ぶ講座で、師範代になった。自分で指導する弟子を取る前に離れた（というのも、その組織で活動するより、それを広める道を選んだため）。その修行の中で、文章コンテストがあった。映画の換骨奪胎で物語を作るという修行だったが、同期の塾生数十人の中で、なんとか大賞を取ることができた。元の映画は「エイリアン」。これを元に作った物語を今回は紹介する。まあ、小生の考えていることがいかに変なのかバれてしまっただが。

【アリストテレス賞：大賞】

■田中和明（フェアリー茶色教室）

原作：エイリアン

『ザ・ドール』

1 住み慣れた日常から異次元へ集められた仲間

私の名はセルフ。理不尽な上司やクレームに毎日悩まされ、仕事に退屈し、いつも空想に耽っている。理想の人と理想の部屋で永遠に暮らす事を夢見ている現実逃避型の人間だ。実際の私は、怒りっぽく、何でも悲観的に考え、趣味の音楽にも全く自信が持てない。

ある夜、仕事に疲れ果てて家路についていた私は、街角でのっぴりとした木彫りの人形に出会った。人形はビルの植込みの陰にひっそりと立っていた。何となく気になり、私は人形を鞆に押し込んだ。

深夜ふと目覚めると、私はベッドではなく黒漆の闇の中に立っていた。目が慣れると、黒々とした丘の上に城が浮かび上がってきた。次に我に返った時、静寂の城の広間に一人で立っていた。そして今、広間の中央で、私は他の3人と会話をしていた。「確かに傘を広げながら大学の通用門の扉をくぐったのだが、何故かこんなところに来ておる。何なのだ、ここは」アンガーと名乗った男は、苛立っていた。「軽食スタンドでトレイを棚に戻した瞬間に、ぬかるみ道に立っていたの。ここは、どこ。また酷い目に会うのかしら」サディ

一と自己紹介した女性は、悲しそうに呟いた。「ライブの準備で店の扉を開けたらここにいた」パンクヘヤのホープは、ギターをかき鳴らした。「でもこの雰囲気、いけてるね」「私はセルフ。私も気がついたらここに立っていた」他の3人とは初めて会ったはずなのに他人のような気がしない。昔からの知己のような気がした。

2 安らぎを得るドールの世界

「この部屋はなんだろう」ギター片手に、ホープはホール横の扉に向かった。勢い良く扉を開けると、部屋はキャンドルで明るく照らされていた。部屋の真ん中に長椅子に横たわった死体があった。部屋はたった今迄誰かがいたような明るい雰囲気だった。「死因は何だ」長椅子の死体を観察しながらアンガーは呟いた。「どうも腑に落ちん。これは奇妙な死に方じゃ」「このおじさん、笑っているわ」サディーは沈んだ声でいった。「笑いながら死ぬなんて嫌だわね」ホープが床に落ちていた紙を拾い上げた。「『私はドール。私と共に安らぎを得よ』だって」「このおじさんは、安らぎを得て死んだのかしら」「何が安らぎだ。部屋に籠って死ぬことが意味のある事か」アンガーは苛立った口調で言った。私には分かっていた。ドールは城の各部屋にいて、入ってきた者の願望の姿に変化し、虜にする。ドールに虜にされた者は、理想の部屋で理想の人と死ぬまで夢を見るのだ。この世界は、私が思い描いてきた世界だ。しかし、虜にされた人は、二度と部屋の外にでられない。この部屋の主の様に。まるで格子の入った楽園ではないか。私まで虜にされてはいけない。

3 ドールの城の恐ろしい秘密

「みんな聞いてくれ」3人が私の周りに集まってきた。「この城の各部屋にはドールがいる」「ドールってなんだい」「ドールは、部屋に入る者の心の願望を読み取り、『契約』で人を部屋の虜にする。人の弱い心に入り込む怪物だ」「学者の僕には、願望や弱い心なぞない」「私も、理想や願望などとっくに捨ててしまったわ」

「僕は23世紀の音楽演奏ロボットだから、心なんか元々ないよ」

「君達は、この城の虜になりたいのか」誰も、私の話を本気に聞かない。「頼むから、真面目に聞いてくれ。部屋でドールに話しかけられても答えてはいけない。二度と元の世界に戻れなくなくなるぞ」

アンガーは、自分の現在の体験が説明できず怒っていた。「納得いかん。不連続時空を研究せにゃならん。書齋はないか」階段を昇りながら呟いていた。「人生って困った事ばかり、誰も信じられないわ」サディーも2階へ向かった。広場には私とホープが残った。

4 ドールの虜にされる仲間たち

アンガーが扉のノブを握る寸前、部屋には蜘蛛の巣が張っていた。扉を開けた瞬間、蔵書と測定器械で溢れた書斎になっていた。美しい女教師が立っていた。「アンガーくん、遅刻よ」ばっくりと口を開けたま後ろ手にドアを閉める。「ぼ、僕。ごめんなさい先生」

扉の向こうには王子がいた。「君を待っていたよ、サディー」姿見には夜会服の淑女が映っている。「私の王子様」ゆっくりとサディーは王子へ歩み寄った。広間では、2人が静まり返った2階を見上げている。「何かおかしいぞ、探しに行こう」ホープが言った。

後ろ手に組んでアンガーを覗き込む女教師がいた。アンガーは女教師を凝視していた。「いいこと、先生と一緒に勉強したければ、『はい』と言うのよ」いきなり扉が開いてホープが部屋に飛び込んできた。部屋の中央にアンガーが倒れていた。「大丈夫か」抱き起こしながらホープが訊ねる。「下へ運ぼう」私は言った。

アンガーが目をさました。「何があったんだ」ホープが聞いた。「先生がいた。一緒にいたければ『はい』と言いなさいと言われた」アンガーはまるで子供のような話し方だった。「どうして、僕を連れ出したんだ」跳ね起きたアンガーは2階へ駆け上がり扉を閉めた。部屋に戻ったアンガーはドールと会話をしている。アンガーには女教師に見える。「戻って来たのね。で、お答えは？」「『はい』です先生」とたんに書斎が収縮し、アンガーはドールに吸収された。「僕と一緒に暮らそうよ、プリンセス。サディーの答えはどうなの」「『はい』ですわ、私の王子様」サディーは、幸せそうに答えた。「2人とも消えてしまった」アンガーを追いかけて2階に駆け上がったホープは、空っぽの部屋を見つめながら呟いた。「ドールは本当にいるのか。僕も会いたい。僕の音楽は素敵なのに生きた音楽にならない。ドールに会えれば僕は理想の世界に生きられる」ホープは隣室に飛び込んだ。ものすごい振動が城を揺るがす。部屋ではホープとドールが向かい合って共鳴していた。振動で部屋が発火する。「僕は理想の世界に出会えたぞ」衣服も人造肌も燃え尽き、なめらかな金属ボディをさらしながらホープが叫ぶ。「これで僕の音楽も完璧だ」炎で天井が崩れ落ちた。ドールの城が劫火に包まれた。

5 ドールの城からの脱出と人形への誓い

私は、階段を駆け下り、広間を横切り、外界への扉を開けた。扉の向こうには、広大な空間が広がり、大勢のドールが立ちはだかっていた。「セルフ、あなたの理想の人は」「君の感情を開きたまえ」「きっと、あなたの希望を叶えてさしあげるわ」しかし、私には理

想の部屋も理想の人も見えなかった。どのドールものっぺらぼうの木彫り人形のままだった。「君には、理想も希望もないのか」。

気がつけば、私は自分の部屋のベッドでびっしょりと汗をかいていた。枕元には、昨夜拾った木彫り人形があった。夢だったのか。他の3人の行動が、私の心の奥底の願望だったことが、今はっきりと分かった。無意識に現実から逃げようとする私の弱い心をドールは虜にしたのだ。私は、自分が虜にされなかった安堵感で、人形に手を伸ばした。とその時、人形が光を放ちドールに変身した。「セルフ、君の理想は？」ドールが私の現実の世界まで追いかけてきた。「もう、空想の世界はたくさんだ」ドールに向かい私は叫んだ。夢から醒めた私は、現実逃避をするのはもう止めるよと人形に誓った。

◆講評◆

原作のミームを生かしながら翻案し、いかに換骨奪胎して別ものとするかは、物語編集の最大の課題。夢見る若者の脳内ファンタジーとも読める本作の編集プロセスは、この課題に鳥の眼・虫の眼方式で挑みました。

田中さんは、ストーリーの流れやシーン、登場人物の関係性は映画に倣いつつ、「らしさ」をつなぐ螺子を逆回転に。これにより、原作に忠実でありながら大きな飛び幅が実現。また、「肉体と精神」「夢と現実」「理想追求と現実逃避」などの対立する二項がドミノ倒しのように次々と反転して境目を失い、悪夢のワールドモデルが構築されました。

大きな構造はサクッと変えてしまい、細かい箇所はきめ細やかな見立ての妙でじりじりつないでいく。その二つが動力となれば、ストーリーは自走します。

「エイリアン」のメッセージは、主人公の内的抗争がそのまま生存の可否につながり、外界の運命も左右するという内→外の動きに支えられましたが、『ザ・ドール』では不快な外敵から身を守る居城が、脱出不可能な「格子の入った楽園」として精神を浸蝕する、外から内への警鐘が鳴らされました。

文章には若干荒削りな未完成が残ったものの、細心と大胆によるリバーズエンジニアリングは、今期随一。「自己とは」「希望とは」「感情や意欲とは」と、読者に概念工事を促す本作に、アリストテレス大賞を贈ります。

第24号

1 直近の活動

6月01日(木)金属部会臨時執行役員会 6人

6月04日(日)金属部会幹事会 22人

6月10日(土)中国本部金属部会員・執行役交流会(広島) 21人

6月11日(日)中部本部金属部会員・執行役交流会(名古屋) 16人

6月18日(日)「企業内技術士勉強会(第一回)」 25人

6月25日(日)金属部会定例部会(6月分) 49人

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

7月02日(日)幹事会(7月)

7月09日(日)金属部会CPD技術セミナー8「熱処理はこんなに面白い」

7月16日(日)「企業内技術士勉強会」(第2回目)

7月23日(日)金属部会定例部会、役員会

7月30日(日)「企業内技術士勉強会」(第3回目)

3 部会四方山

▶すでに、今年も半分終わった。金属部会の予定されていた行事も次々と実行されていった。これも、幹事団の皆さんと、部会参加者の皆さん、他部会から参加いただいているみなさんのご協力の賜物である。▶前半を振り替えれば、1月の114人の部会参加者新記録の吉武記念講演会、2月以降の定例部会、4月の歓迎会や歓迎見学会などがあった。技術セミナーも2月の「マテリアルズ・インフォマティクス」3月の「表面技術」、5月の「歴史金属学」を盛大に開催できた。▶地域連携も、5月より地域連携幹事が新たに中国、中部から2名ずつ4名の新幹事が参加してくれ、6月には、現地での執行役との交流会も行えた。▶勉強会も「デジタル技術」が1~3月の短期活動を行い、見事に皆で、PEの論文に仕立てることができた。言い出しっぺの芝崎幹事を初め、情報提供してくれた熱心な参加者の協力があったことであろう。今月号(7月号)にしっかり掲載される。6月より予告通り、「企業内技術士勉強会」を始めた。賛同者が49名、キックオフには25名が集まってくれた。これからの活動がどのような成果を生み出すか楽しみである。▶執行役を中心に、CPD登録講習会も3回、技術士会説明会を1回行った。これは来年からやり方を見直す必要があると感じる。

▶ただ、CPD登録者を見ると6月時点で、まだ昨年の半数しか登録が済んでいない。参加者も行事の回数の多さに、日曜が潰れるため、少しずつしんどさが出てきている。この手の活動は、イケイケどんどんの時はいいいのだが、定常状態にどの時点で移行できるかが課題だと思われ。

▶そんな中、**YES-Metals!**の活動が軌道に乗ってきた。毎月の開催とバラエティに富む参加者は、これまでの若さの勢いでやってきたリアル会合からコロナで活動がストップしかけた時期を経て、再びオンラインでの活動を復活させてきたことは、関係者の粘り強い努力と、活動にかける思いが感じられる。

▶金属部会の活動は、多すぎるのか、統一性がないのか、よく言われるようなテーマが定まっていないのか。和鐵は、この混沌が、活動の原点だと考えている。綺麗なスローガンのもっと綺麗な会合をするより、面白そうだから参加しようというノリでの活動の方がやりがいがあるのではなからうか。その混沌のベースが部会であってもいいかと思っている。いろんな考えの人がいろんなことをやっている。これという確固たるモデルがあるわけではない。皆が部会活動のごった煮の中で主張し、動き回ればいいかと思っている。以前から、「和して同ぜず」と「和える」ことを念頭に部会の導いてきた。均一で綺麗でなくていい。一人一人の色がみえていい。均一にならず、ゴツゴツして自己を主張する、これが「和える」である。和えればいい味が出ると思う。

4 和鐵管見 22

最強になってしまった。何に対してか？風邪に対してである。なんで最強なのか？それは、4月に2日間に渡りコロナ濃厚接触者になった（隣に座っていた人が発症）が、びくともしなかった。コロナ免疫バッチシである。伊達に六回目のワクチン接種をしていたわけではなく、免疫がついてきたのだろう。▶そんなコロナ免疫最強の和鐵であるが、6月半ばごろとんでもない発熱を経験していた。勉強会を始めたのだが、実はあの朝、起きてみると39度の熱があった。「これは、今日は無理かな」と一瞬思った。しかし、文明の力とはすごいもので、13時の勉強会に時には35度まで熱が引いていた。金曜から熱が出始め、土曜の朝に医者にかかると、なんと「インフルエンザA」だとの診断である。その週は、ほとんど自宅とジムの往復だけだったが、どこでうつったのか皆目検討がつかない。まるでマリア様にでもなったような心境である。「あまり高熱になると飛び降りたくなりますから、この薬を飲んでください」と言われた薬を飲むと、体温が激減した。35度なんて、プールから上がった後くらいしか経験のない体温である。▶家人曰く、現在、君津でインフルエンザ大流行らしい。コロナ隔離が終わり、これまでなりを潜めていた従来からの風邪が流行している。▶コロナの絶頂期でも、2週間で、コロナ菌を死滅に追いやる方法があったと聞いた。それは、2週間だけ、全人類が他の人から20メートル離れて暮らせば良いということであった。空気感染するコロナは、周囲に人がいなければ、死滅するという塩梅らしい。まあ、それができないから蔓延したのだろう。我々はZOOMという文明的な武器があり、20メートル以上を確保した。さすがのコロナもインフルもネット越しでは感染出来まい。▶いずれにしてもインフルエンザで高熱を発した和鐵は、とりあえずインフルエンザA型には免疫ができ、コロナも感染しないことがわかった。つまり最強になってしまった。ただ、経験則的にいうとジムは結構な頻度で感染源になりうるかもしれない。「職員に感染者が生まして、消毒のためにお休みします」の張り紙を幾度となく見た。まあ、数少ない感染源であるので、ジムから帰ったらうがいと手を洗うのを忘れずに行おう。今月は、いや今月も支離滅裂な文章である。皆さんご安全に。

第25号

1 直近の活動

- 7月02日(日)幹事会(7月)
- 7月09日(日)金属部会CPD技術セミナー8「熱処理はこんなに面白い」
- 7月16日(日)「企業内技術士勉強会」(第2回目)
- 7月23日(日)金属部会定例部会、役員会
- 7月27日(木)四部会連絡会
- 7月30日(日)「企業内技術士勉強会」(第3回目)

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

- 8月04日(金)臨時部会長会議
- 8月06日(日)幹事会(8月)
- 8月13日(日)「企業内技術士勉強会」(第4回目)
- 8月20日(日)四部会合同講演会
- 8月27日(日)金属部会定例部会

3 部会四方山

▶またもや最近では技術士会での活動がドタバタし始めた。かといって、和鐵は委員会活動をしているわけではない。だいたい、ああいう周囲の人と協力して仕事をするという行為は苦手で、どの委員会に入っても借りてきた猫の子状態だった。▶ここしばらくは、選挙期間だったので金属部会のお仕事は控えていた。選挙も終わったのでじわじわ活動を再開し始めると收拾がつかなくなりつつある。▶65周年記念行事も記念誌も言い出さなければ、和鐵も巻き込まれる皆さんも穏やかに静かな日々が送れる。企業内技術士の勉強会も然り。言い出さなければ何もバタバタすることもない。四部会合同講演会もセミナーも然りである。「地方連携、うーん、やるべきですね、まあタイミングをみて考えましょう」こうっておけば、何も起きない。要は、バタバタするのは、言い出すからなのだろう。▶でもどうなんだろう。何も起こらない平和な日々、何となく過ごす毎日が好みの人にとって、ドタバタは迷惑かもしれない。でも、ドタバタしているが、一年を通して参加者が昨年で1500名、今年で1800名、上振れすると2000名の皆さんが活動に参加できる場を提供するには、やはりドタバタも必要かもしれない。▶こう言う活動は、中断するのは簡単だ。忙しいからやめまずで終わる。でも、それでいいのだろうか。今月も心の葛藤がモヤモヤと溢れ出している。

4 和鐵管見 23

▶和鐵の映画好きは偏っている。タブレットやテレビやDVDでの映画鑑賞ではない。映画館での鑑賞だ。先月だけでも「インディージョーンズ」「ミッションインポッシブル」「君たちはどう生きるか」その前も「アバター」「・・・」いずれも封切日に見ている。▶この映画好きは、学生時代から始まった。昼間の授業はあまり出たことはなかったが、柔道部の道場でずっと過ごしていた。練習が終わって飲み会も終わると真夜中に近い。飲み会がない時は家庭教師のバイト（高校時代までの知識は柔道部入部ともに頭からすっからかんになっていたのだが、雇ってくれるご家庭はハロー効果を通して我々をみているので当時はボロも出さずに先生をしていた）をして過ごす。いずれにしても自由時間が夜中しかない。▶40年前の京都には金のない学生が夜通し入り浸れる場所は、それほど多くなかった。飲み屋か映画館か柔道部の同期の部屋しかなかった。同期の部屋はよほど金のない時しか寄り付かない。ただでさえ、道場でボロ雑巾を着込んでゴロゴロと寝転んで抱き合っている仲なのだ。合宿所でも汚い布団にくるまり周囲に負けじと大いびきをかいている仲だ。私生活でも抱き合って寝るなんて真っ平だ。それにいきなり押しかけると、驚いたことに「彼女」が部屋にいる場合もある。私生活でもボロ雑巾のような格好をした同期が突然現れると、そいつは全力でドアノブを引っ張って入室拒否をする。しばしドアを挟んだ攻防戦をやり、ドアをガンガン叩いて威嚇して退散することになる。▶飲み屋は金がなければ入れない。まあ、つけで飲ませてくれる柔道部行きつけの文楽という居酒屋が最後の砦だが、そこには金がない諸先輩が酔っ払って大声をあげているか突っ伏して酔い潰れているかするので、あまり近寄りたくない。明け方、店が閉まる時、表に放り出されるので、後輩が担いで帰るしか無くなる。▶となると、勢い居場所は映画館のオールナイトしかない。本当に金のない時は、オール5本だて500円の**会館に行って映画を見ながら爆睡する。少し余裕がある時は八坂神社の前の準封切りオールナイト1000円までチャリンコを飛ばす。二本立ての場合もあるが、大抵は一本。「エイリアン」なんかはここで4回もぶっ続けでみた。▶6月号で既存の映画を下敷きにした小説を書く編集工学研究所のコンテストで、和鐵の「ザ・ドール」が大賞を受賞したことを自慢げに書いてしまったが、これは「エイリアン」を下敷きにしていた。でも同じ映画を初見で4回ぶっ続けで見たことのあるコンテスト参加者は多分稀だと思う。映画の細部までいまだに詳細に思い出される。エイリアンを見た年季と回数は半端ない。▶最近は、入れ替えなしがなくなってしまったので、お上品に一回見たら映画館の外に出なければならない。でも、最近の「パッセージ」は上映期間中でも3回、ビデオになっても4回は見ている。▶現在、入れ替えがない映画館は、知っている限りではギリギリ早稲田松竹が残っている。もちろん上野の昔ながらの怪しい映画館を除いてのことだが。ここは、ある時突然、65歳になったらフランスに留学しようと思い立ち、その足で早稲田大学が社会人向けにやっているフランス語教室に入学し、毎週末早稲田に通っていたときに見つけた。なんで今まで一度も習ったことのないフランス語を勉強し始めたかは動機は自分でもよくわからない。でも一言で言うと、65歳になった時、自分を変えたかったのだったと思う。と言うのも、和鐵の奥さんのシロ子さんの母親が、何をどう思ったのか65歳の時、立命館大学の経済学部を受験し、見事合格して4年間女子大生をした。新入生歓迎コンパにも若者

に混じって出ていたし、女子寮にも入って青春を謳歌していた。これを見ていたので、和鐵も65歳で大学生になろうと思っていた。でも、日本ではすでに大学生を経験しているので、海外でやろうと思った。そこで、思い立ったのはフランスのソルボンヌ大学の外人向けの歴史芸術教室だ。1年間通えば一年後にマントと帽子をかぶった卒業式がある。それに憧れたのだ。まあ、パリには4、5回遊びに行っていたので、日本の観光地より土地勘はあった。半年の勉強後、武者修行として一人で10日間ほど、パリ14区のアラブ人と黒人ばかりのクレメ地区の怪しい安ホテルの、それも屋根裏に宿泊して、フランスを歩き回ってみた。屋根裏は4階、一般感覚では5階だった。狭い階段をふうふう言いながら登って行って部屋に入り込むと、まるでオペラの「ラ・ポエム」の主人公になった気分だ。その時、全く言葉が理解できなく愕然とした。おまけに喋れない。ただし「イリヤネパラモンシャンベルイエール」だけはなんとか喋れるようになった。これはやむに止まれず覚えたフランス語で、「昨日（イエール）、僕の部屋（モンシャンベル）、掃除していませんでした。ゴミを捨ててほしいです」という言葉で、一日置きに受付のにいちゃんに伝えていた。最後には「今日もイリヤネパラかい？」と向こうが聞いてきた。こんなわけでとりあえず1年の留学は思いとどまった。モタモタしているうちにコロナが始まり無期延期になっている。もう65歳をいくつか超えてしまった。パリでの学生生活がなくなったので技術士会のお仕事をしている感は否めない。▶どうでも良いが、早稲田松竹はフランスをはじめとする全然無名の外国のものばかりで何回も連続して見ようという気にならない。やはり同じ映画を際限なく見れるような昔の映画館を探している。▶映画館といえばもう10年ほど前になるが松岡正剛の編集工学研究所の門下生をしていたとき、文章術を教えてくれた師範代の女性がやたら勧める「灼熱の魂」がどうしても見たくなり、千葉から大阪のヒューマンラストまで見に行った。日本国中でここでしかやっていなかった。映画の内容のネタバレは控えるが、とんでも映画だった。電車賃を使って見に行く価値があるものかの議論は置いておくにしても、翌週の勉強会で、師範代とその映画について会話し「あれを見たの？」と驚かれた。それはこっちのセリフだ。あんな内容の重たいとんでも映画を師範代が推薦していたのかと言いたいところ、そこは先生には敬意を払う常識がある和鐵のこと、言葉を飲み込んで窒息しそうになった。▶和鐵の映画を見る時の作法は、学生時代から変わらない。前から四列目の真ん中で画面が視野いっぱい広がる状態でそっくりかえって鑑賞する。必ずポップコーンとでかいコーラを持っている。これが作法だ。▶学生時代には気にならなかったが、最近では後何本、映画館で見られるかが少し頭がよぎる。月に2、3本でまあ一年で25本。10年で250本か。何年か前にできた木更津の映画コンプレックスと日比谷シャンテにある映画館が主な出没先だ。木更津は毎晩通っているジムの横にあるので、夜の終了間際のジムで汗をかき、そのついでに最終上映の映画を見るパターンで、日比谷は東京に泊まる機会を捕まえては寸暇を惜しんで入り浸っている。なんか、歳をとると映画の値段も格安になっているようで回数アップに拍車がかかる。以前は、こまめに手帳に見た映画の題名を書き出していたがもうそんな細かいことはやめた。見れるだけみようと思っている。▶あれ、今月も気づいたらとんでもない字数になっている。正気に戻って、定例部会の議事録を真面目に書こうと気合いを入れ直す和鐵であった。

第26号

1 直近の活動

8月04日(金)臨時部会長会議

8月06日(日)幹事会(7月)

8月13日(日)「企業内技術士勉強会」(第4回目)

8月20日(日)四部部会合同講演会

8月27日(日)金属部会定例部会

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

9月03日(日)幹事会(9月)

9月10日(日) 金属部会CPD技術セミナー9「金属最新技術2」

9月17日(日)「企業内技術士勉強会」(第5回目)

9月24日(日)金属部会定例部会(9月分)

3 部会四方山

▶臨時部会長会議があった。R4の一次試験問題で出題ミスがあり、全部門での同様のミスがないか緊急チェックを部会で行うことになった。各部会でチェックの方法は異なる。数人でチェックする部会もあるが、金属部会は執行役、幹事が全員でチェックすることにした。さすがに部会長は報告責任があるのと理事は理事会でこのチェックを決めた当該組織のメンバーなのでこれを外すと、29名。35問をこの幹事の人数で分担し、副部会長は全問回答チェックするという無茶振りだった。しかし、金属部会の幹事会の結束は硬く、ほとんどの幹事がチェックを返してきている。各問題、最低7名、多いと1ダース以上の人間がチェックして問題の瑕疵を見定めてくれた。これだけの人間が検討したが、不都合点は「表現の改善提案」程度であった。審査委員がしっかりチェックしてくれているおかげであると思う。一安心だ。▶今回、金属部会の幹事会メンバーが総出でチェックしたのには訳がある。いずれ我々の仲間になってくれる「金属部会候補生」の試験問題を「試験センター」や「審査委員」に任せっぱなしになっている実態は、あまりにも部会として不誠実だとこれまでも感じていた。▶誤解を承知でいうが、部会で試験問題を検討するという事は「受験指導になる」という古くからの固定概念があり、試験問題に部会の行事で触れることはアンタッチャブルになっていたような気がする。しかし、試験問題を改善し、今回のような不祥事にいち早く気づくことができるのは部会において他にない。技術士試験問題の誤りを外部の人の指摘で気づくのは正しい姿なのだろうか、ということだ。▶少なくとも、試験問題についてチェックし、改善点を自ら見つけ、審査委員は氏名不詳であるにしても部会内で共有化して、次回の問題作成に反映するという自浄があって改善スパイラルが回る健全な活動であると信じている。▶試験問題の誤りとその長期間放置によ

る本来合格者への不当な処置というという受験生にとってとてつもない不義理が発生した今回の事態は、その発生原因や対応策をしっかりと見極めていかねばならない。部会としても迅速に問題のチェックによる不都合な事態を長引かせ、受験生に不利益にならないような対策を取るのは義務である。こう思う。今年R5年の一次試験が首尾よく実施できたとしたら、今度は金属部会の有志による試験問題検証を即座に行いたい。その時には、金属部会内の有志の協力を仰ぎたいと思っている。

4 和鐵管見 22

▶最近物忘れが激しい。健忘症かもしれない。と言っても記憶の話ではなく、「もの」忘れのことだ。この2週間でも、食堂にモバイルWIFIを忘れ、泊まったところに着替え袋一式を忘れ、食堂でipadmini6を忘れ、テレワークオフィスでヘッドホンを忘れた。日本はとても良い国で全部戻ってきたが。▶怪我也あった。いつもの駐車場所と異なる場所にリーフを停めて近道しようと仕切り壁を乗り越えると、下に床がなかった。段差がすごくあったのだ。当然一回転して背中から転がった。幸いいつも背負っているリュックの中のmacbookairが背中を守ってくれたが、あと数センチで車止めに頭を激突していた。さっきふとももが痒かったので掻いていると血が出てきてびっくりした。なんと結構激しく怪我していた。▶最近、ちょっと忙しくなってきた。通常は忙しさややることがたくさんあるのは全然苦痛でないのだが、この1ヶ月がちょっと常軌を逸しているような気がする。やるべきことをルーティン化して24時間に詰め込んでいくのは結構好きだが、最近はルーティン化しても溢れそうになる。この時間の緊張感が好きで、いつも急かされていなければ生きていくような気がしないのは少し病気かもしれない。▶最近次第に懇親会の数が増えてきた。東京に出かけてきていつもの居酒屋でいつものメンバー（でもないが）でいつもの飲み会をしているとコロナが遠い過去の出来事のようなきがしてきた。でも、身の回りでは、結構な頻度で知り合いが緊急入院しているのでまだまだ油断はできない。でも、アルコール消毒しているのでまあいいかな。▶今月は短めにしよう。映画館でみたい映画がちょっと途切れている。昨年見た映画がamazonprimeで見れるようになったので、何度も見ている。題名は「ブレット・トレイン」昨年秋くらいに公開されたがあまり話題にならなかった。でもブラピが主人公でめちゃくちゃ面白い。舞台は日本、それも新幹線の中。東京から京都へ行く弾丸列車の中に乗ってくるのが殺し屋ばかり。新幹線の雰囲気は、北陸新幹線で走っていた「走る美術館」、現美新幹線の雰囲気。これには一度しか乗っていないが、コンセプトがすごかった。映画では美術品はあまりないが、近未来的な感じがする。東京発で夜行で走って京都に到着する(?)までの間にどんどん悪人が乗ってきてなぜか分からないが全員が戦う。戦うのは外人ばかりだが、西洋人が持つ日本のイメージを臆面もなく表現している。新幹線の中は静かにしなければならないので、これまた西洋人のおばさんが、きっと睨むと、大立ち回りをしている連中が静かになる。おまけに頭まで下げる。・・・これ以上はネタバレになるので描かない。何にも考えずに、電車の中や寝る前に流しっぱなしにできる。大真面目にやっているコメディかもしれない。最近見た映画の中でベスト3には入る。

第27号

1 直近の活動

9月03日(日)幹事会(9月)

9月10日(日) 金属部会CPD技術セミナー9「金属最新技術2」

9月17日(日)「企業内技術士勉強会」(第5回目)

9月24日(日)金属部会定例部会(9月分)

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

10月01日(日) 幹事会、執行役座談会

10月02日(月) 部会長会議

10月08日(日) 金属部会CPD技術セミナー10「独立・開業」

10月15日(日)「企業内技術士勉強会」(第6回目)「製造物責任後半」

金属学会「まてりあ」コラボ企画キックオフ会

10月22日(日) 金属部会定例部会(10月分)、

金属部会2024年CPD講演者への説明会

3 部会四方山

▶定例部会の最中に寝落ちした。講演の間は無事だった。新技術報告も前半の自己紹介までは記憶がある。しかし、後半にいきなり記憶がなくなった。皆が心配してくれて電話をもらったようだが(携帯に9件も着信履歴あり)全く気づかなかった。さすがに木曜日から睡眠時間が数時間で仕事をしていたら、日曜にこれまで経験のないほどの垂直落下の寝落ちになった。通常の引力の3倍くらいの落下速度であった。参加者の皆さんにはご迷惑をかけた。こんな事は初めての経験だ。体力がなくなったと実感している。でも、睡眠から蘇ると後は元気になった。▶65周年記念誌は皆様のご協力で進み始めている。本当にありがたい事である。9月はなんだかあっという間に終わった感覚だ。ていうか、いろいろメールを出し忘れて幹事はじめいろんな方に迷惑をかけている。心気一新で10月に望みたい。

4 和鐵管見 25

▶狂ったような忙しさが続く。でも、忙しいと本を読んだり映画を見たりしたくなるのは、昔からの悪い癖だ。高校時代の試験前日にどうしても小説が読みたくなり、武者小路実篤やトルストイや小松左京を読み続けてしまった、あの感覚だ。現在は、漫画喫茶で「ガラスの仮面」(演劇はこのシリーズで学んだ)49巻を爆読中だ。日経office pass<月定額で31回、全国の契約オフィスや喫茶が使える。10回行くと元が取れる無茶苦茶お勧め。東京などは朝食や夜食が無料のところとか、お酒が飲み放題、一日中いてもいい場所

もある。最近の編集者との打ち合わせもこの契約喫茶でやれば無料。もちろどこもフリーリンクだし。1日100枚までコピーができるところも結構ある>が使える漫画喫茶が木更津にできたので、夜の20時からジムで汗を流した後、そこに移動してシャワーを浴びたあと、3時間は鍵付き個室フラットルームでゆっくりできる。wifiもあるし技術士会の仕事はここですることになっている。気分が乗ると、もう3時間仕事をする。漫画は読み放題なので、数冊部屋に持ち込み、議事録を書いては少し読み、メールを出してはまた読むをくりかす。（こうでもしなければやってやれないのも事実ですが）次は「天は赤い河のほとり」（少女漫画だがヒット帝国が舞台）にいきそうで怖い。▶映画は、10月に入ると劇場版が怒涛のように封切るのでそれまでの繋ぎでビデオで我慢している。「カサブランカ」は何回目だろう。「君の瞳に乾杯」「昨日はどこにいたの?」「そんな昔のことは覚えてない」「今夜会える?」「そんな先のことは分からない」言ってみたいセリフだ。「昨日の締切り原稿どこ?」「そんな昔のことは忘れた」「明日出すメールは?」「そんな先のことはわからない」こんなことばかり夢見ているので、いつもZOOMメール発信を失敗するのだろう。ともかくにも9月後半のドタバタがようやく過ぎた。覚悟していたが尋常じゃなかった。（この文面だけでは遊んでばかりに見えますが）▶カサブランカで思い出したが、この中で歌われる「時の過ぎゆくままに」は最高だ。ヘッドホンで聴くのもいいが、以前、クルーズ旅行の終日航海の夜に渋い中年の外国のピアニストが弾き語りをしていて。いろんなリクエスト曲を受けて即興で弾く趣向だ。リクエストがひと段落した時、和鐵が「カサブランカ!」という、片手をあげおもむろに「時の過ぎゆくままに」を歌い出した。あれは痺れた。まるで自分がボガードになって、横にいるのがシロ子さんではなくバーグマンの気分だった。持っていたビールの小瓶をあげて、「君の瞳に乾杯」と言ってみたが「何言ってるの」と一蹴された。でも、第二次世界大戦中によくあんな映画ができたと心底思う。▶音楽続きでは、もう一つ。最近執筆中に「リリーマルレーン」をずっと聴いている。もちろん、デートリッヒのドイツ語版だ。アンデルセンのも捨て難いし、日本人のもいいのだが、やはりマレーネ・デートリッヒが最高だ。聞き始めたきっかけは、今執筆している本の中で「ハインリッヒを知っていますか」と書いたところ、このフレーズはどこかで聴いたことがあるなあと気になり記憶を辿ると、大昔に読んだ鈴木明の「リリー・マルレーンを聴いたことがありますか」のフレーズのパクリだった。残念ながら、当時の大判本は蔵書の中からは見つけれないので古本を購入して読み直している。そうそう、大阪万博のシーンから始まるんだと記憶が蘇ってきた。ところで、みなさん、ハインリッヒってご存知でしょうか?この人の本は本当に面白いんです。例のなんとかの法則の元ネタ本です。労働災害をしている人なら誰でも知っているヒヤリハットの元祖です。でもね、彼ってなんとかの法則で皆がしたり顔で解説しているようなことを全く言っていないんです。・・・ということで今月も文章が支離滅裂になったところでお開きにします。

第28号

1 直近の活動

- 10月01日(日) 幹事会、執行役座談会
- 10月02日(月) 部会長会議
- 10月08日(日) 金属部会CPD技術セミナー10「独立・開業」
- 10月15日(日) 「企業内技術士勉強会」(第6回目)「製造物責任後半」
- 10月22日(日) 金属部会定例部会(10月分)
- 10月29日(日) 「企業内技術士勉強会」(第7回目)「製造工程責任前半」

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

- 11月05日(日) 幹事会、65周年記念誌編集会議
- 11月06日(月) 65周年記念大会。音楽の部の打ち合わせ(東京)
- 11月12日(日) 「企業内技術士勉強会」(第8回目)「製造工程責任後半」
- 11月17日(金) 全国大会名古屋四部会合同見学会&前夜パーティ
- 11月18日(土) 全国大会名古屋総会&懇親パーティ
- 11月26日(日) 金属部会定例部会(11月分)

3 部会四方山

暑い暑いと思っていっても季節はもう秋たけなわ。夜が寒くなってきた。▶小生は部会の中でせっかちでほら吹きと思われているようだ。次から次へと新しいことを提案したり、皆さんに仕事を振ると思われている。しかし、それは全く認識違いだ。小生はものぐさで、スケジュール管理が全然できない。▶先日の10月の定例部会の前の午前中に、来年1年間の講演者に集まってもらって発表手順の説明会をしてもらった。副部会長や理事がしっかり仕切って説明してくれていた。せっかち?全然、放っておいたらギリギリになって大慌てするだけだ。自分がものぐさなのがかわっているので、一年前から全てのスケジュールを立ててしまい、講演者も決めてしまう。そうすれば、ものぐさでも取りこぼしがなくなる。▶金属部会の行事が多いとよく言われる。先日などは、事務局から「金属部会のオンライン補助金が突出していておかしい」と言われた(ようだ)。結果としてはそうかもしれない。しかし、実態は、その場その場をなんとか運営してきた結果が積み重なっただけだ。回数が多いなど考えたこともない。今年も残すところあと2ヶ月。今月は全国大会もある。皆さん、全国大会の会場でリアルで会えることを楽しみにしています。

4 和鐵管見 26

▶この2ヶ月で本を2冊出す。1冊目は10月14日の発売の『世界史を変えた金属』。絶賛発売と言いたいところだが、アマゾンの売れ行きがそれほど良くない。近所の書店でも見かけたことがない。気合いを入れて作ったものも売れなければ、ただの紙屑になってしまう

う。自分的には面白いのだが、やはり手書きのイラストを見ると躊躇されてしまうのか……。図書館にでも入れてもらえれば、いいのだが。2冊目は、11月の末に出る『技術者研究者のための仕事に役立つ技術者倫理』。表題からして怪しさ満点の本だ。でも内容は面白いと思うのだが。なんだろう、自己啓発本と技術者倫理のどっちもつかずの本で、出す前からなんだか凹んでいる。そのうち書店に並ぶので、手にとってみてほしい。▶本を書き終わると、もやもや感しか残らない。書いている最中はまだ、作業をしているので、それなりに緊張感がある。しかし、出来上がった本は最初の内容の3分の1になっている。商用ベースになると、描きたいこと、語りたいことをギュギュギュっと圧縮し、枝葉を切り落とす。で、「これは自分が書いたのだろうか」と思われる本が出来上がる。まあ、それでも読んでみると楽しい。多分、自分で書いた本を読むのが一番頭に残る。

「お、この表現いいね」「つぼをついているね」とご満悦だ。まあ、考えたら自分で書いているものを読むのだからタコが自分の足を食っているようなもので、自分にとって世界で一番理解しやすい本になる。これだけは楽しみだ▶以前、写実画の収集で有名なホキ美術館で、所蔵の絵の前で、画家に絵の書き方について話を聞いたことがある。小生が「それは、主義主張をしっかりと表現することですか」と聞くと、画家の答えは意外なものだった。「僕の絵には主義主張は全くありません」「でも、こんなに素敵な絵ですよ」「絵を褒めていただくのはありがたい。でもね、その絵を自分の主張で描くのはアマチュアですよ」「どういうことですか」「いい絵を世に問う時はそれでいいんだ。でもね、絵描きはプロです。プロは、時間内に予算通りに、クライアントの要請通りの絵を描くことだけを考えるんですよ。そうでなかったら次の注文は来ないからね」「展覧会に入選することも、ですか」「もちろんです。どこそこの展覧会で入選して、それを美術館が買い上げるんですよ。展覧会に入選するチェックポイントなどは頭に入っていなければなりません。あとはコストですよ。人物を描くにはモデルがいるでしょ。モデルを一定時間雇うお金、100号の絵に必要な絵の具、仕事場所も見積もりが必要です」「なんだか、我々がいつもやっている仕事に似ているなあ」「絵描きも仕事ですよ。ボランティアや暇つぶしややりがい探しのために絵を描くなら、自分の主義主張を出してもいいでしょうが、プロは仕事をするだけで、あなたのお仕事と何も変わりません」「でも、素敵な絵ですよ」「それは当然のことです。そこの成果物の質を落とせばクライアントはつかなくなります」「プロって、厳しいんですね」「君も仕事をしているとするならプロでしょ」▶この会話を聞いてから、仕事に対する考え方がずいぶん変わりました。今回はここまで。

金属部会長便り(2023年12月号)2023年12月1日発行(第29号) 田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

第29号

1 直近の活動

- 11月05日(日) 幹事会、65周年記念誌編集会議
- 11月12日(日) 「企業内技術士勉強会」(第8回)「製造工程責任後半」
- 11月13日(月) 65周年記念大会。音楽の部の打ち合わせ(東京)
- 11月17日(金) 全国大会名古屋四部会合同見学会&前夜パーティ
- 11月18日(土) 全国大会名古屋総会&懇親パーティ
- 11月26日(日) 金属部会定例部会(11月分)

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

- 11月30日(木) 4部会連絡会
- 12月3日(日) 幹事会、役員会議事内容確認、R5確認進捗、部会長会議提出内容、65周年記念誌進捗確認
- 12月10日(日) 午前中。R5一次試験問題部会有志検討会
- 12月10日(日) 「企業内技術士勉強会」(第9回)講義&BORディスカッション「環境倫理」
- 12月12日(火) 部会長会議
- 12月17日(日) 「企業内技術士勉強会」(第10回)勉強会の今後。講義「内部通報・内部告発」
- 12月24日(日) 金属部会定例部会(12月分)、役員会
- 1月7日(日) 幹事会(2024年1月)
- 1月27日(土) 吉武記念講演会・65周年記念大会

3 部会四方山

▶全国大会が名古屋で開催された。参加者の皆さん、ご苦労様。また参加できなかったみなさんも、定例部会で雰囲気画像をお伝えしたので、ぜひ来年の北海道大会に参加しましょう。今年は11月の初めまで暖かかったらしく、来年の10月初めは、まだ札幌ビール園でのビールとジンギスカンが最高だと思います。和鐵は早速、来年に向けてお小遣いを貯め始めました。金属部会の皆さん札幌で会いましょう。▶とまあ、来年の話をしたが、今年の愛知の大会は本当にご苦労様だったと思う。オリンピックの比ではなく、2020年開催から3年間待っての開催だった。さすが三河人の辛抱強さや粘り強さには頭が下がる。基調講演の先生なんか、「2018年の依頼を受けて5年越しの講演です」とおっしゃっていた。▶見学会もトヨタ産業技術記念館は良かった。ここはやはり一度は見ておくところだ(といいながらも、昔愛知万博の時に、金属部会で「バックヤードツアー」を企画した時、初日にここと「鞍ヶ池博物館」を訪れたことがある。でも完全に忘れていたので、「どこかで記憶にあるなあ」という光景が続いていた)▶定例部会も、当初予定にはなく、臨時に入れ込んだが、「ロータス金属の中嶋先生」のお話は、金属学的にも技術士的にも大変感銘を受けたものだった。この講演を聞かなかった人は絶対損をしている。先生はビデオ

公開OKとっていただいているので、いずれ公開する。▶こんなドタバタの中、部会のメンバー、幹事会のメンバーの協力で、着々と65周年記念誌が出来上がりつつある。本当に皆さんのご協力、金属部会の団結力には感謝しかない。

4 和鐵管見 27

▶このところ封切り和製映画が目白押しだ。この1ヶ月で、「沈黙の艦隊」「ゴジラ-1.0」「首」「翔んで埼玉（琵琶湖より愛を込めて）」。大体封切り日の最終回に観に行く。「ゴジラ-1.0」はすごい。あの完璧だと思ったシン・ゴジラを軽く超えてきた。全く別物のゴジラ映画だ。これは皆さんは絶対に見にいくべき映画だと思う。終戦直後の日本、まだ自衛隊もなければ米軍もソ連を恐れて手を出さない。日本軍は解体されて存在しない。そんな時代にゴジラが出現した。誰が国をどのようにゴジラから守るのか、という壮大な思考実験映画だ。ゴジラ退治の科学的根拠はあまりに壮大過ぎてついていけないが事実なんだろう。▶「首」は、本当に140分があっという間に過ぎた。北野武監督の作品なのでハズレはないと思っていたが、信長、家康、秀吉をこんなに強烈に描いた作品は初めて見た。構想30年と銘打っているのも嘘じゃない。この映画のためにこれまでの北野武の映画があったのかと思った。アウトレイジと同じで登場人物は全部悪者で腹黒くで強烈な自己中野郎ばかり。でも憎めない。合戦のシーンなんか黒澤映画を思わせる大迫力。まさに「時代劇」だ。最近のこの時代の時代劇は、信長にタメ口をきくお姫様やら、友情やら信義やらでやたらベタベタしたものが続いてきたが、「首」は、ひょっとしたら実物ってこんな感じかなと思わせる迫力だ。この映画はもう一度見にいくような気がする。▶と、ここまで書いて「翔んで埼玉2」を観てきたら、言いたいことが変わった。全く頭を使わず、映画を楽しむにはこれに限る。和鐵の出身の大阪の府知事や学生時代住んだ京都の市長や、奥さんの実家がある神戸の市長もみんな悪ものである。子供の頃よく行った和歌山の白浜の砂を求めて、大騒動が巻き起こる。先週は関西にいて、梅田でコナモンを食べ（本当にお好み焼きの看板に「コナモン」と書いてある）、帰りに琵琶湖のほとりの駅で降りて歩いて銅鐸博物館（入場時に「野洲市民ですか」と受付が聞いたので「ちばらぎ」ですと答えてしまって入場料を損した。「はい、野洲市民です」と答えるのが正解らしい。受付のいちゃんが「惜しかったですね」と言って教えてくれた。答えられたら無料で入れた。もちろんずるなので心の中で「（隠れ）野洲市民」と隠れを唱えればいいのかと。銅鐸はたくさんあった）を見学してきた和鐵としては他人事ではない映画となった。この1ヶ月で観た映画の中では「翔んで埼玉2」が最高だった（それだけミーハーということか。初っ端の千葉解放戦線の扱いなんか秀逸だ。こんなディスリかたは初めて見た。滋賀の銅鐸博物館までの道で不思議な子供の看板を何枚か見たのだが、映画の中で納得）。ビデオではAmazonプライムで見た「キングコング」（2005）がイチオシだ。初代のコングより迫力があるし、物語性も素晴らしい。▶和鐵の次の本は、「脱炭素社会」これは毎年恒例の年末年始完全引きこもり執筆で仕上げて1月に出すつもりだ。問題は、出版社がついて来られるか。世界史と技術者倫理でだいぶ他の本を待たせてしまったので、12月中に編集方針を決める。そのあとは、「日本史を変えた金属」を来年の10月、「ハインリッヒの労働災害防止のキホン」を8月出す。日本史は決定だが、まだ原稿できていない。視点が銅鐸や

銅矛や銅鏡、金属大仏などの鑄造、刀剣、銭、反射炉なテーマが目白押しなので項目を絞らなければとんでもないページ数になる。でも本当に書きたいのは「ウーツと玉鋼、あるいはダマスカス刀と日本刀」。これを日印文明比較論で鋼を通してやりたい。おわり。

金属部会長便り(2024年1月号)2024年 1月1日発行(第30号) これは田中和明個人の意見で部会の総意ではありません。

第30号

1 直近の活動

11月30日(木) 4部会連絡会

12月3日(日) 幹事会、役員会議事内容確認、R5確認進捗、部会長会議提出内容、65周年記念誌進捗確認

12月10日(日) R5一次試験検討会、「企業内技術士勉強会」(第9回目)「環境倫理」

12月12日(火) 部会長会議

12月17日(日)「企業内技術士勉強会」(第10回目)勉強会の今後。内部通報・内部告発」

12月24日(日) 金属部会定例部会(12月分)、役員会

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

1月7日(日) 幹事会(2024年1月)

1月11日(木) 技術士会新年会、賀詞交換会2024

1月21日(日)「企業内技術士勉強会(11回目)」予定

1月27日(土) 吉武記念講演会・65周年記念大会

3 部会四方山

▶皆さん、あけましておめでとうございます。2024年が始まりました。早いもので、金属部会で2期目が始まってもう半年が経ちました。2021年はコロナで部会活動手探りの年、2022年は部会活動に 세미나や勉強会を加えてた年、2023年はそれを踏襲した年でした。これから始まる2024年は、地方本部や関東支部の金属部門の皆さんが主役になる年です。

▶地方交流では、中国本部や中部本部の皆さんにお世話になりました。まだまだ交流会に行けていないところも多く、東北、北陸、四国、そして今年の全国大会の北海道がとても楽しみです。▶部会活動はボランティアです。ボランティアは、金銭が絡むとか絡まないとか、責任があるとかないとかではありません。ボランティアの語源はラテン語で、「volo=自ら~する」や「voluntas=意志」です。ボランティアの本来の意味は、無償の奉仕活動ではありません。ボランティアとは「自発的な意志による活動」なのです。つまり、強制されたり、責務があるから行うのではなく、自らが行わなければならないと思うから行う、これがボランティアです。

▶部会長のとんでもないボリュームの仕事(?)を嬉々としてやっていて「暇ですね」

「なんでそんなに夢中なる」「ボランティアなのだから程々に」「部会長は黒子なので君のような行動は慎むように」と助言を受けることもあります。でも、いいじゃないですか。「自発的な意志」で行動しているのですから。それは、全国の金属部会のメンバーが、「技術士らしく」活動できる基盤になる部会を作りたいから作っているだけです。皆

さんも、同じようにしてくれ強制するつもりはありません。「自発的な意志」で一緒に活動していただける、そんな部会にしたいと思っています。

4 和鐵管見 28

▶最初は映画の話から。12月は「ナポレオン」しか見るチャンスがなかった。11月の「首」や「ゴジラ」もなかなか良かったが、「ナポレオン」は最高だった。ところどころのシーンなんか、完全にベルサイユだったかルーブルだったかしてみた巨大な絵画の世界にハマっていたし、戦場のシーンも「首」で黒澤を超えたと言ったが、ナポレオンは完全に「戦争と平和」の戦場シーンを超えた。ところどころに出てくる「青銅砲」や「臼砲（キャノン砲）」なんかも小生が「西洋史を変えた金属」の冒頭にグラビアページを作ってもらい、掲載したものと同じものが鑄造され使われるシーンが出てきて、あの写真をアンバリッドで撮影した時、こんなつながり方になるとは思いませんでした。ナポレオンをやっている俳優が、実は小生の大好きな映画「Her 世界にひとつの彼女」（人工知能の女の子にヘタレ中年オヤジが恋をする話）に出てきたあの主人公と同一人物とはとても思えない。いやあ、映画って本当に面白いですね。ナポレオンの奥さんジョセフィーヌ役がミッションインポシブルの女ボスがやっていたのはあまりにもハマりすぎていて、実際の奥さんもこんな感じだったんだろうなと思わせる。

▶金属部会の皆さんへ。日頃から、部会に参加いただき感謝します。皆さんのご協力があって初めて部会活動が動きます。この点では、金属部会は、皆さんのお力が、一つになるチャンスがこれまでもこれからもいくつもあります。▶65周年記念誌は、実質7月に作成開始（というかまだ影も形もありませんでした）し、9月末には140ページにも及ぶ記念誌がほぼ出来上がっていました。たった3ヶ月で記念誌を作り上げるという「無茶な企画」は、本来なら「無茶なため却下」だし「忙しい時にそんな事を言い出すのは非常識」で片付けられてしまう妄想でした。しかし、その妄想は、目の前にしっかり存在する「65周年記念誌」の前には影を潜めます。▶金属部門の一次試験のチェックも然りです。「人を信じる」「忙しい時に何をやっている」という批判もあったかもしれませんが、しかし、「一度ある事は二度ある」「可能性がある事は起こる可能性がある」と申し上げてチェック体制を敷いていると、その警戒網に引っかかり、最悪の事態を免れました。▶現在、金属部会では「技術者倫理の勉強会」を毎月複数回行っています。技術者倫理に沿って行動するという事は、お題目でも試験のための回答でもありません。リスクを考え、最悪の事態を回避することを常に考えることで実践できると考えています。▶皆さんは、技術士です。技術士の4つの特徴、責務はなんでしょうか。「卓越した技術」を持ち「優れた課題解決能力」を有すること。この二つを持つのは当然のことでしょう。和鐵の狭い経験では、この二つを兼ね備えている技術者は会社にも社会にもごまんといえます。皆さんが一番であり技術士として名乗れる証は、技術や解決能力だけではありません。3つ目は「技術者倫理に沿った行動ができる」こと、そして4つ目の「継続研鑽を行っていることを証明できること」です。▶和鐵は金属部会長になって以来、部会活動をこの「技術士たれ」ということだけに特化してきました。技術にしても解決能力にしても「空っぽ」からは何も生まれません。たまに技術的な講演を聞きましたなどでは「技術」も「課題解決能力」も一流に維持できません。そこで毎月の定例部会での講演、セミナー、合同講演会、コラボ

企画などを次々を行い、技術のシャワーを浴びれる体制を整えました。「技術者倫理に沿った行動」にしても、技術者倫理の内容も知らず、沿った行動もできません。まずは有志から始めましたが、少なくとも数十人の「技術者倫理を実務でどう使うかを理解し、企業内で広めていける」同士が増えました。継続的研鑽は、CPD実績を記録するところから始まります。ですから金属部会では一人でも多くの人のシステム登録を進めてきました。

▶皆さんは、技術士です。技術士なら、技術士に課せられた責務を果たそうではありませんか。そして、技術や課題解決法だけでなく、技術者倫理を堂々と語り、CPD登録を進めようではありませんか。技術士の認知度が低い。独占業務がない。独立しても仕事がない。そんな事は当たり前です。世の中が注目せず、独占業務がなく仕事がないのは、皆さんが技術士としての姿を見せられていないからではないでしょうか。「CPD登録の意義がわからん」とか「技術者倫理と技術士倫理はどう違うのだ」とか言っている間は、世の中は誰一人として技術士に注目しません。なぜならば、魅力がないからです。▶我々は、相手や世間を恨むのではなく、自らを律し、自らを磨き、そして堂々と「技術士です」と主張しなければなりません。そのためにも4つの責務を口先だけのお題目にし、浮ついた考えの中で「実際、技術士をしてもなんのメリットもないんだよな」と不遇を嘆くのではなく、「技術士を極める」「技術士を追求する」という「技術士道」を追い求めるのです。世の中が振り向かなくてもいいじゃないですか。本当に独占業務を作って「先生」と呼ばれたいのですか？自らを鍛え上げることで技術士としての自覚と誇りを持つようではありませんか。これが年頭に当たって部会長が見た初夢妄想です。今年もよろしく願います。